

JAPAN GOLF ASSOCIATION

JGAGolf Journal



スポーツ振興くじ助成事業

JGA 公益財団法人
日本ゴルフ協会

ゴルフは認知症予防や健康の維持増進に大きく寄与するスポーツです

ゴルフと健康部会・中島和也部会長インタビュー

JGAではゴルフ普及・振興活動の一環として、昨年「ゴルフと健康部会」を立ち上げました。ゴルフを通じて国民の皆さまの健康維持増進に寄与していくことを目的に掲げた「ゴルフと健康部会」の活動内容はどのようなものか。部会長に就任した中島和也氏に聞きました。



——「ゴルフと健康部会」はいつ、どのような目的で立ち上げられたのでしょうか。

中島 JGAではゴルフの普及・振興を活動の中心に据え、昨年度ゴルフ振興推進本部を設置しました。その中に昨年7月、「情報シェアリング部会」「女性とゴルフ部会」とともに新設されたのが「ゴルフと健康部会」です。目的はゴルフを通して国民の健康に寄与していくこと。KGA（関東ゴルフ連盟）などが認知症予防におけるゴルフの効果を研究するために2016年に立ち上げたWAG（ウィズ・エイジングゴルフ協議会）という事業をJGAのゴルフ振興推進本部で引き継いだ形になります。

——中島さんが「ゴルフと健康部会」の部会長に就任した経緯をお話していただけますか。

中島 WAGは3年前に亡くなった私の兄の篤志が設立に携わっていました。兄はKGAの理事だったのですが、ある時、テレビで「デュアルタスク運動（体を動かしながら頭を使う）ことが認知症にいい」ということを見て、ゴルフはその要素が含まれているから認知症予防に効果があるのではないかと思います、それから自分なりに調べはじめたようです。社長を務めていた東松苑GCのメンバーでその道の権威でもある鳥羽研二先生（当時国立長寿医療研究センター理事長、現東京都健康長寿医療センター理事長）にも相談に

JGA WAGクラブ 1Dayプログラムの1日の流れ

	内 容	想定時間	備 考
1	オリエンテーション	10 分	・ 血圧測定等の体調チェック ・ 安全注意点の説明
2	参加者自己紹介	20 分	・ 30 秒自己紹介
3	ゴルフの知識の学習	20 分	・ ゴルフ用語のレクチャー
4	ゴルファーのためのストレッチ（ウォーミングアップ）	20 分	・ けがの防止
5	練習	30 分	・ 歩数を増やすために指導する打席は固定し参加者が移動する
6	コースプレー	60 分	・ 身体と脳への適度な刺激を与えるために、歩きながら考え会話をしてもらう。
7	ゴルファーのためのストレッチ（クーリングダウン）	15 分	・ 運動後の身体的バランスのリセット
8	歓談	15 分	・ スクールの感想等。 ・ 「自宅のできるストレッチ」を配布
9	解散	計3時間程度	

のっていただき、やがてKGAに提唱させていただいたようです。それがWAGの設立につながり、JGAで引き継ぐ時に私が御指名を受けた形です。兄は「ライフワークにしたい」と言うくらいに想いを入れていましたから、これも運命ということなのでしょう。

——「ゴルフと健康部会」はどのようなメンバーで構成されているのでしょうか。

中島 JGAの医科学委員会委員長でもある白木仁筑波大学名誉教授、日本ゴルフ場支配人連合会の八木秀夫会長、鹿沼グループの福島範治社長と私の4人です。先ほどお名前をあげた鳥羽先生にはゴルフ振興推進本部参与という形で携わっていただいています。

——WAGで行っていた認知症予防に関する研究の成果はどのようなものだったのでしょうか。

中島 東京大学、杏林大学、国立長寿医療研究センターと共同で研究を行いました。習慣的にゴルフをしていない65歳以上の男女106人を、ゴルフを週に1回するグループとこれまで通りゴルフをせずに生活するグループに分け、6カ月後に検査した結果、ゴルフをしたグループでは記憶機能が改善されたという結果が出ています。ゴルフは同伴競技者との会話があり、残り距離の計算などで頭を使います。こういった要素が認知症予防に効果があると考えられています。この研究結果は論文としてイギリスの公衆衛生学誌で発表され、R&Aからも高く評価されました。

——近年は世界的にゴルフと健康を関連付けた研究が進んでいるようですね。

中島 イギリスのエジンバラ大学でゴルファーはゴルフをしていない人よりも寿命が5年長いという研究結



1Dayプログラムは体調チェックからスタート



指導者のもと基礎から学べるので初心者も安心

果が出ていますし、心臓疾患や脳卒中、高血圧、糖尿病などのリスクを減少するというデータも出ています。ゴルフは何より歩くという要素が大きいと思います。歩くことで持久力や心肺機能が向上し、代謝がうながされるということも発表されている。認知症だけでなく、さまざまな病気の予防や健康の維持増進に寄与できるスポーツであるということが認められつつあると感じています。

——「ゴルフと健康部会」の具体的な活動内容をお聞かせください。

中島 現在はJGA WAGスクールの実施と普及が主な活動です。

——JGA WAGスクールはどのようなスクールなのでしょうか。

中島 健康維持増進のためのスクールでゴルフをしたことがなくても受講できるものです。オリエンテーション、参加者の自己紹介から始まり、ゴルフ知識を学び、ストレッチで体をほぐしてから練習に入ります。ゴルフ未経験者もいますから最初はゴルフの基礎から経験していただきます。練習、コースでのプレーを終えたら、クールダウンのストレッチ、最後に歓談をして終了。1回3時間ほどのスクールで週に1回、計8回実施します。ただ、いきなり8回ですと受講者にとっても受け入れるゴルフ場側にとってもハードルが高いかもしれませんので、体験版のような1DAYプログラムも準備しています。

けが防止のため練習前にストレッチで身体をほぐす



プレー中の会話は認知症の予防やコミュニティ構築にも貢献

—— このJGA WAGスクールの普及に力を入れているわけですね。

中島 そうです。ただ、むやみに広げようとするのではなく、いいものをつくり上げて正しく伝えていくことが大切だと考えています。もうひとつ重要なのは地域に密着し、自治体と一緒に実施していくということ。ゴルフ場やゴルフ施設はメンバーやゴルファーだけのものではなく地域住民の健康維持増進に寄与できる施設として自治体と関わっていくことが理想です。また、これまでの参加者を見ると、女性の比率が高くなっています。ゴルファー全体で女性は2割に満たないですから、女性ゴルファーを増やすきっかけとしても期待できそうです。

—— 9月にはイベントを行うそうですね。

中島 はい。厚生労働省は毎年9月を健康推進普及月間として国民の健康づくりを推進する活動を行っています。我々もそれに合わせて9月に開催される日本シニアオープン（9月11～17日）をゴルフ健康週間と名付けて大会会場の能登カントリークラブ（石川県）で「ゴルフで健康寿命をのばそう！プロジェクト」を実施する予定です。



自然の中でプレーするゴルフは健康維持増進に大きく寄与する

—— どのようなことを行うのでしょうか。

中島 9月15日（金）に「快眠とゴルフで健康長寿」と題したトークショーを開催します。睡眠時無呼吸症候群治療の第一人者である成井浩司先生をお招きし、倉本昌弘プロや高橋勝成プロら参加選手と対談する形のトークショーです。翌16日（土）にはJGA WAGスクールの1DAYプログラムを行います。また、大会期間中にスタンプラリー「ごる印めぐり」を実施します。観戦しながらスタンプラリーをしてしっかりと歩いていただこうという試みです。ゴルフ健康週間の期間中には各地のゴルフ場でも1DAYプログラムを行う予定で、現在（6月末時点）能登カントリークラブを含め19カ所が決まっています。

—— 今後の活動はどのように考えていらっしゃいますか。

中島 まずはJGA WAGスクールを広めること。ゴルフと健康に関するさまざまなデータを集め、発信していくことが大きな柱ですので、そこに注力していきたいと考えています。

—— 最後に、ゴルファーのみなさんにメッセージをお願いいたします。

中島 ゴルフは多くの人とコミュニケーションがとれ、コミュニティの構築に貢献できるスポーツ。いろんな世界が広がっていくと思います。さらに、健康維持増進にも役立つ。ゴルフを生活の一部に取り入れ、健康で充実した生活を送っていただければうれしい限りです。

ゴルフ健康週間 2023

2023第33回日本シニアオープンゴルフ選手権の会場で「ゴルフで健康寿命をのばそう！」イベントを多数開催します。



イベント
参加費
無料

ゴルフで
健康寿命を
のばそう！
プロジェクト

in NOTO CC

皆さまのご参加を
お待ちしております！

スクール

WAG
ウィズエイジングゴルフ

JGA WAGスクール 1Dayプログラム 入場・参加無料

JGA WAGスクールは、健康維持増進のためのゴルフスクールです。ゴルフは生活習慣病の予防や精神的な健康も増進させるなど心身の健康に役立ちます。ゴルフで健康増進、はじめてみませんか？

開催日時 2023年9月16日（土）13:00～15:00（予定）※雨天中止
場所 能登カントリークラブ宝達コース内 募集人数 15名
対象者 宝達志水町在住の45歳以上のゴルフ未経験または初心者の方

トークショー

快眠とゴルフで健康長寿

先着50名様 入場・参加無料

※事前申込をされた方に限ります

睡眠時無呼吸症候群（SAS）は、睡眠中に無呼吸を繰り返すことで、様々な合併症を起こす病気です。SAS治療における日本の第一人者である成井浩司先生をお招きし、「快眠とゴルフで健康長寿」というテーマで出場選手と対談していただきます。



成井浩司

赤坂おだやかクリニック 名誉院長元虎の門病院睡眠センター長

開催日時 2023年9月15日（金）13:00前後～ 最大1時間半程度
場所 ギャラリープラザ
出演予定 倉本昌弘プロ、高橋勝成プロ 他
※当日変更になる場合があります。

スタンプラリー

ごる印めぐり
STAMP RALLY

ゴルフ観戦は1日10,000歩以上の歩行を促し、平均約8～9kmを歩きます。これは1,000カロリー以上を消費したことになります。大会期間中、一面の緑の芝生の上で心身の健康のための、「歩く」イベントを実施します。

開催日時 2023年9月14日（木）～9月17日（日）4日間
開催内容 コース内18カ所の歴代優勝者のスタンプなどを集めて賞品をもらおう！
参加賞 6カ所・9カ所・18カ所取得で賞品がランクアップ
※予定数に達し次第終了



JGA WAGスクールにご参加の方、トークショー先着50名様以外の方は入場券が別途必要です。入場券は当日会場でもお買い求めいただけます。

当日券 木金：2,000円（税込）／1枚
土日：3,000円（税込）／1枚

前売券 1冊 7,000円（税込）
●木金共通券×2枚 ●土日共通券×2枚
●平日プレー特別優待券×1枚

JGA WAGスクール、トークショーのお申込みは、JGAゴルフ応援サイトから▶▶▶

公益財団法人日本ゴルフ協会
ゴルフ振興推進本部 事務局

TEL 03-6275-2644 受付 9:30～17:30（土日祝日除く） e-mail golfdev@jga.or.jp



公益財団法人 日本ゴルフ協会
JAPAN GOLF ASSOCIATION

後援 石川県／宝達志水町



日本ゴルフ協会の新たな活動を支える 「ゴルフ学芸員」

来年、創立100年を迎える日本ゴルフ協会。その節目に合わせるかのように、当協会はいま、新たな社会的使命を担おうとしている。そこに欠くことのできない「学芸員」とは？「ゴルフ学芸員」を志す宮井善一、井手口香の両氏に話を聞いた。



インタビュー：三田村昌鳳（JGAオフィシャルライター）

宮井 善一（みやい ぜんいち）

1965年 和歌山県生まれ。1989年 山口大学卒業、スポーツニッポン新聞社入社。校閲記者、前橋支局、サッカー担当記者を経て1997年からゴルフ担当記者。2004年 スポーツニッポン新聞社退社。フリーのゴルフライターとなり現在に至る。2018年10月 学芸員資格取得に向け必要な科目の履修を開始。2023年3月 学芸員に必要な科目の単位をすべて修得。
・日本プロゴルフ殿堂オフィシャルライター
・元世界ゴルフ殿堂選考委員
・日本女子プロゴルフ協会50年の歩み編集協力委員

井手口 香（いでぐち かおり）

1973年佐賀県武雄市生まれ。1996年、佐賀クラシックゴルフ倶楽部入社。2007年から都内のゴルフ場に勤務する傍ら、東京都ゴルフ連盟の競技委員として競技運営に携わる。2023年9月、玉川大学教育学部教育学科通信課程学芸員コース卒業予定。

三田村 「ゴルフ学芸員」。おそらくほとんどの方が初めて目にする言葉だと思います。それぞれゴルフ界で活躍されてきたおふたりが、この度「学芸員」の資格を取得。今後は「ゴルフ学芸員」の道を志しておられるわけですが、そもそも「学芸員」とはどのようなお仕事で、それがどうしていまゴルフ界に必要なのか。そのあたりをおふたりに聞いていただこうと思います。まずは、どうして学芸員になろうとされたのですか？

宮井 そもそも三田村さんとこれからのゴルフ界を語るなかで、「ゴルフミュージアム」の重要性について触れられ、本来そこには学芸員が欠かせないという話になったことから興味を持ちました。

三田村 宮井さんはもともとスポーツニッポン新聞の記者で、過去の記録などデータの収集や分析に熱心でしたね。

宮井 子供の頃からスポーツの記録を調べるのが好きでした。スポーツニッポン新聞社に入り、1997年にゴルフ担当になったのですが、ゴルフは他のスポーツに比べて記録の整理が遅れていました。そこで、自分なりにコツコツ調べてきたのですが、歴史などを体系立てて整理するには、きちんとした資格や肩書を持って取り組むのが一番と感じたこともあり、学芸員の資格取得にチャレンジしたわけです。

三田村 取得までにどれくらいの時間がかかりました？

宮井 4年半くらいですね。僕の場合は仕事をしながら、全9科目中の8科目の単位を放送大学で、半期に1科目というペースで取りました。残る最後の1科目は「博物館実習」で、これは放送大学では取得できないので、筑波大学に入り直し、1年かけて取りました。

三田村 学芸員は国家資格？

宮井 そうです。ただし、任命権者から「学芸員」として採用されなければ、資格があるだけで「学芸員」とは名乗れませんけど。

三田村 井手口さんも本職は小金井CCのキャディーでありながら、東京都ゴルフ連盟で競技委員をやったり、メディアに記事を執筆されたりと多忙ですが、なぜ学芸員に？

井手口 私もきっかけは、三田村さんです（笑）。そもそも私が戦前のゴルフ場巡りが趣味で、歴史にも興

味があることを知って、提案されたと思っています。

三田村 歴史を語るうえで欠かせない「関東7倶楽部」の存在を知るや、伝手を頼りに全部プレーされたといった話を聞き、貴方の好奇心と行動力は放ってはおけない（笑）。

井手口 私は、小金井CCが「名門」と聞かされても、どこに「名門らしさ」があるのか分からない。それで「関東7倶楽部」の存在を知って、それぞれどんな倶楽部なのだろうか、行ってみないと分からないと思って。

三田村 なぜ、戦前のゴルフ場に興味が？

井手口 きっかけは神戸ゴルフ倶楽部です。神戸は一回行くともう十分という人と、また行きたいという人に分けられると聞きます。私は後者で、何度行っても楽しい。それで、歴史を調べると、私は故郷の九州で雲仙をはじめ古賀とか、門司、別府といった戦前からあるゴルフ場に結構行っていることが分かりました。そこから、全国にある戦前からのコース全部に行けるんじゃないかと思い、詳しく調べ始めたのです。

三田村 いまあるのは何コース？

井手口 32コースです。無くなったコースも実際に跡地を訪ねて、「現存すればどんなだったのだろう」と想像するのが楽しい（笑）。

三田村 そういう人だから、学芸員の話振ってみたんですよ。

井手口 最初は冗談と思ってました（笑）。でも、何度か提案されたので調べてみると、確かに日本のゴルフ界には必要と思えて。ただ、私は高卒なので、大学に入らなければ取得できない。幸い、近くにある玉川大学の教育学部に通信課程があり、その学芸員コースを卒業すればいいことが分かり、働きながら大学の勉強をしました。

三田村 よくやりましたね（笑）。何年かかりました？

井手口 まる5年です。今年9月に卒業予定です。通信課程ですが、3分の1はスクーリング（対面）の授業でした。教員免許を取ろうという学生たちと一緒に、必死に勉強してる5年。自分ながらよくやったと思います。その代わり、この1年間はゴルフはまったくできませんでした。

「学芸員」が果たす役割

三田村 ところで学芸員とは、具体的にどのような仕事なのでしょう？

宮井 「博物館法」上は、「博物館資料の収集・保管・調査研究・展示をする専門職」です。

三田村 博物館といえば「展示」ですが、そこでは具体的にどんな仕事を？

宮井 まず、展示品の保存に責任を持たなければなりません。貸し出し・借り受けのある展示では双方の学芸員が展示品の現状をチェックし、搬出・搬入に立ち会い、貸出先でも同じ状態が保たれていることを確認。そして寸分たがわいない状態で返却されるまで、すべての責任を負います。

井手口 貸し出す側は相手先に学芸員がいなければ、基本的に貸し出しをしません。ですから、JGAゴルフミュージアムが企画展を企画しても、学芸員がいなければ、他館から展示品を借りることはできないのです。

三田村 博物館に学芸員はマストなんですね。

宮井 はい。ただ、国内に「博物館」と称する施設は6000弱あるそうですが、「博物館法」に則った運営の施設はそのうちの2割程度。あとの8割は類似施設で、学芸員の存在は不明です。登録博物館になると様々な規制があるため、それを回避してのことでしょう。

三田村 JGAゴルフミュージアムの名前が出たところで、現状をどのように見えています？

宮井 もともと展示スペースは限られているので、学芸員の立場からすると、主な仕事は調査研究になると思います。そこで気になるのは、資料の保存状況です。保管場所の湿度や展示場所の照明は資料に大きなダメージを与えるので、少し心配です。



1920年頃に使用されていたヒッコリーシャフトのクラブ（JGAゴルフミュージアム内）

井手口 古い書物の修復作業は、学芸員の実習で習いました。和書は使われる糊が虫には美味しいらしく、洋書より虫食いに遇いやすいそうです。

三田村 ゴルフミュージアムの展示についてはなにか？

宮井 宮本留吉さんの工房はもっと見やすく展示したいですね。

三田村 倉庫には古いクラブや用具など、その時代を伝える貴重な品が多く埋もれているような気がします。今後は、新たな収集にも力を入れたいですね。

「歴史」を伝える意義

三田村 話は少し戻りますが、宮井さんが記録などのデータ収集と整理が大切と思ったのはどうして？

宮井 「歴史」は過去と未来の対話という言葉があります。過去を正確に知らないと、今を判断することも、未来を設計することもできません。スポーツの世界も同じで、過去の記録や先人の業績を知らずに、今を正しく伝えたり、未来を語ることはできないと考えています。

三田村 日本のゴルフ界は、数字や過去の記録を軽んじる傾向があります。残すべきスコアカードが保管されていなかったり。それを探し出す作業は大変な労苦でしょう。

宮井 正直、なかなか進みません。昔の新聞や雑誌を漁ってコツコツと調べています。国会図書館には何百回行ったか分かりません。1997年からですから、もう26年になりますが、全容を系統立てるには至っていません。まだ半分にも達していない感じです。

三田村 井手口さんは今年（2023年）、学校法人の東京ゴルフ専門学校でゴルフの歴史を講義されています。若い人たちに歴史を教える経験はどうでした？

井手口 驚きでした。ゴルフを始めて3年程度の若者のなかには、2018年までの肩の高さからのドロップを知らない人がいたんです（笑）。でも、歴史は何もしなければ時とともに忘れられるんですね。それで自分にも、と思い、ゴルフの歴史をもう一度学び直し、一緒に勉強できたのが良かったです。

三田村 講義で、ヒッコリーのクラブを打たせていましたね。

井手口 皆さん楽しそうでした。学芸員の立場から言えば、実物資料に実際に触れて、使ってもらうことは「博物館教育」なのです。



日本オープンで大会最多の6勝を挙げた宮本留吉の「宮本ゴルフ製作所」（JGAゴルフミュージアム内）

いまこそ歴史の継承に本腰を

三田村 「ゴルフの文化を伝える」と口で言うのは簡単ですが、実際にはきちんと継承されてこなかった。どこに原因があったと思います？

宮井 難しい問題ですね。もともと日本は欧米に比べ、ゴルフに限らず歴史を重んじない傾向があるかも知れません。例えば、海外のゴルフ選手と日本の選手を比べると、海外の選手のほうがゴルフの歴史に対する造詣が深いイメージがあります。1997年にタイガー・ウッズがマスターズで初優勝したとき、彼は今があるのはリー・エルダーを始め、アフリカ系の先人のお陰と発言しています。自分のバックボーンはアフリカ系ということ踏まえての感謝の言葉です。残念ながら、そのような言葉を日本の選手から聞いたことはありません。

三田村 1973年に全米オープン取材したとき、予選落ちした大学3年のベン・クレンショーが他の選手のプレーを見たいと、コースに残っていました。興味をもって話を聞いたら、彼の趣味はゴルフの古い書物を集めて読むことでした。数年後、プロになった彼が、全英オープンが終わったあと、会場のミュアフィールドを仲間たちとヒッコリーでプレーして、「ここは遊び場じゃない!」と怒られたことがありました。ゴルフの歴史を勉強する彼は、遊びではなく、心からリンクスをヒッコリーでプレーしたかったのでしょうか。

井手口 その気持ち、よく分かります。

三田村 日本のプロから「歴史」の話聞くことはほとんどありません。私にはいま、ゴルフの歴史や文化の継承に乗り出さないと手遅れになるという危機感があります。ちょうど来年（2024年）、「日本プロゴルフ殿堂」がプロゴルフという枠を取り除き、「日本ゴルフ



廣野ゴルフ倶楽部の敷地内にあるJGAゴルフミュージアム



貴重な展示物や資料が多数揃えられている（JGAゴルフミュージアム内）

殿堂」に姿を変えます。おふたりが学芸員になられたのは、本当によいタイミングで、歴史とそこで育まれた文化の継承に乗り出すいいきっかけになると思っています。

宮井 歴史・文化・記録を後世に正しく伝えるのは、我々の大事な使命だと思います。これからのジュニアにも、歴史やルールの変遷などを伝える態勢を作りたいです。

三田村 ゴルフには面白い逸話がたくさんあります。例えば、ゴルフコースはなぜ18ホールになったとか。

井手口 小瓶に入ったウイスキーをキャップに注いで飲みながらプレーしたら、18ホール目で空になった、という話ですね。

三田村 でもそれは、他にきちんとした史実があつての面白い逸話です。歴史を精査し、史実を明記する。それがおふたりの仕事なんだと思います。JGAは定款を変え、ゴルフの競技団体ではなく、文化も一般に伝える組織になりました。これからのJGAの活動には、おふたりの存在は欠かせません。今後、活躍の場は広がっていくと思います。どうぞよろしくお願いします。

R&A インターナショナル ゴルフカンファレンス2023

～ゴルフ発展の契機に「学び」「チャレンジ」「新しい仲間を」～

2023年4月25日から3日間、R&Aの本拠地であるスコットランドのセントアンドリュースで「R&Aインターナショナルゴルフカンファレンス2023」が開催されました。ゴルフのマーケティング戦略や振興策、ゴルフのプレー方法など18に及ぶテーマでゴルフが今後も発展し続けるための施策を議論しました。



専門家によるゴルフと健康についてのパネルディスカッション

2023年4月に開催されたR&Aが主催するインターナショナルゴルフカンファレンスは、これまで世界ゴルフ会議と称されていたもので、コロナ禍を経て6年ぶりの開催となった本カンファレンスには100を超えるR&A加盟団体から200名以上の代表者たちが参加しました。

Golf's Golden Opportunity (ゴルフのまたとない好機)というタイトルが付されたこの会議では、ゴルフがどのように好ましい変化を推進していくのかについて、ゴルフ産業界内外からの専門家たちによる18のトピックスが披露されました。ゴルフが今後さらに発展していく機会は多くあり、そのキーワードとして

「サステナビリティ」、「女性」、「ゴルフと健康」、「家族」、「ジュニア」などが挙げられ、出席者はそれぞれのトピックスに熱心に耳を傾けていました。

オープニングセッションに「ゴルフ:私たちの現在地点と今後どこへ向かうのか?」というタイトルで議論の場を設定したマーティン・スランバース氏(R&Aチーフ・エグゼクティブ)は、「ゴルフは多くの人が評価するよりもより包括的に変化しています。R&A加盟団体やパートナーたちの間でより効果的に協調して取り組む能力は、このGolf's Golden Opportunity (ゴルフのまたとない好機)を最大化する中心的な役割を果たすことでしょう」と述べています。



マーティン・スランバース氏 (R&A チーフ・エグゼクティブ)



フィル・アンダーソン氏 (R&A ゴルフディベロップメントチーム チーフ・ディベロップメントオフィサー)

このカンファレンスのプログラム作成の中心となったR&Aゴルフディベロップメントチームのチーフ・ディベロップメントオフィサーのフィル・アンダーソン氏は「私たちはこのカンファレンスをGolf's Golden Opportunity (ゴルフのまたとない好機)と呼んでおり、私たちの背後にある機運を加速させ、すべての成功しているスポーツ団体が有している基本的な成長原理を実現するならば、私たちすべてにとって大きなチャンスなのです」と述べています。また、同氏からはゴルフ振興にはSNSの活用が最も効果的であり、ゴルフをしない若い人や女性たちの持つゴルフのステレオタイプのイメージを改善するためには、「インフルエンサー」にゴルフの魅力を伝えてもらうことが最善策として考えられ、R&Aでは19.1万人のフォロワーも持つウェルズ出身の著名なサッカー選手(ガレス・ベイル氏)の協力の下でアニメーションによるプロモーション動画を作成して多くのノンゴルファーにリーチしたことが報告されました。

セントアンドリュースに集まった代表者たちは、他のスポーツやビジネスにおいて彼らがどうやって変化を生み出しているのかを学ぶことができたとともに、議論を促し、学び、チャレンジ、新しい仲間を作るという本カンファレンスの目的を理解し、それぞれの国でゴルフ振興に取り組んでいくための知見を広げることができました。

専門家たちのコメント:

マーク・ベネット氏 (VP Google Partnerships)

「ゴルフにおける重要な点は、あなたのメトリクス(測定基準)が何であるのか(TikTok視聴者なのか、倶楽部メンバーなのか、単にゴルフについて話題にする人々なのか、夜間にゴルフをする、あるいは練習場に行く人々なのか)の答えを出すことです。そうした取り組みは評価と理解に大事なことであり、その点においてテクノロジーは優れています」

アンドリュー・マレー教授 (R&A医学/科学アドバイザー)

「ゴルフは不安、鬱病、そして認知症を著しく減少させます。さらに、パーキンソン病にも有効です。私は博士であり、一般医でもあります。ゴルフは私たちの患者に効果があります」

ミゲール・フランコ・デ・ソーサ氏 (ポルトガルゴルフ連盟)

「私たちの多くのアンバサダーたちは女性です:女性がゴルフを前進させる原動力となることを知っており、家族のゲームを必要としているので、私は女性たちにより多くの女性をゴルフに引き込んでほしいと思っています」

ロブ・マックスフィールド氏 (PGAチーフ・エグゼクティブ)

「私たちはゴルフ産業と同じく、ゴルフは単に18ホールのコースをプレーする人々のためだけのものではないというメッセージを広めることに取り組んできました」

グラント・ヘップバーン氏 (南アフリカゴルフCEO)

「現代思考、テクノロジー、そして機会の重視は、R&Aが伝統的な価値観とプレー形式を見失うことなく、時代と共に進化していることを示しています」

参加者の声:

ローレンス・アップルバウム氏 (ゴルフカナダ・チーフエグゼクティブ)

「このカンファレンスは有意義な経験でした。ゴルフ界のリーダーたちのグローバルな考えを聞き、学び、連携する機会や世界中のゴルフ連盟の人たちと過ごした時間はただ素晴らしいという言葉に尽きます」

ジェームス・サザーランド氏 (ゴルフオーストラリア・CEO)

「このカンファレンスは、現在ゴルフがこれだけ繁栄している理由とその手法、また現在ゴルフが享受している成長の機運を活用していくために私たちに何ができるのかについて素晴らしい洞察力を提供してくれました」

R&Aインターナショナルゴルフカンファレンス2023はR&AのYoutubeチャンネルでダイジェスト版が視聴できます。

